

巻頭言 就任のご挨拶

内科学 IV 教室 教授
荒若 繁樹



平成29年4月1日付で内科学IV教室の教授として着任いたしました。

内科学IV教室は、神経内科とリウマチ膠原病内科の2つの領域を担当します。これまで内科学I教室として活動してきましたが、内科学IV教室として新しくスタートしました。

私は平成3年に山形大学医学部を卒業し、山形大学医学部第3内科に入局しました。これまで、国内外で留学していた時期を除き、山形大学第3内科で診療・研究に従事してきました。この間、二人の教授からご指導を受けました。入局時の教授である佐々木英夫先生からは、専門しかわからない医師ではなく、全般的な内科診療もできる医師になるよう指導を受けました。後を継がれた加藤丈夫教授は、生活習慣病や神経疾患において個人に適したオーダーメイド医療を提供するという考えを、文部科学省の重点事業である21世紀COE・グローバルCOEという大きなプロジェクトに結実されました。住民健診を発展させてゲノム医療と結び付けるプロジェクトから、地域の特性を活かして世界に情報を発信することを学ばせていただきました。これらは、私の医師・研究者としての骨格となっております。

私の専門は神経内科です。神経内科は、脳血管障害のほか、慢性頭痛、パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症・脊髄小脳変性症などの神経変性疾患、多発性硬化症・筋無力症などの免疫性神経疾患、末梢神経障害、髄膜炎などの感染性疾患、筋ジストロフィー・筋炎などの筋疾患といった幅広い疾患の診療を行います。私は、これら神経内科全般の診療に携わってきました。この中で、パーキンソン病などの神経変性疾患の臨床と病態解明を目指した研究に取り組んできました。パーキンソン病の診療では、画像診断の進歩により診断技術が向上しています。治療法についても、多様な薬剤が登場し、状態に応じた治療が提供できるようになってきました。このほか、多発性硬化症の再発予防治療なども進歩しています。このような進歩を積極的に取り入れ、適切な診断とエビデンスに基づいた治療の提供に努めていきます。神経内科疾患は、早く診断して治療にあたるべきものと、比較的ゆっくり診療していくものと幅があり、この判断が難しいときがあります。診断や治療法の選択にお困りのケースがありましたら、是非ご相談いただければ幸いです。

内科学IV教室がカバーする神経内科とリウマチ膠原病内科の共通点は、いわゆる難病を対象とすることが多い点です。これまで両グループは、様々な病気に対する豊富な診療の実績を培ってきました。神経内科では、難病センターを設置し、国内でも有数の筋萎縮性側索硬化症などの診療実績があります。リウマチ膠原病内科では、予後に重大な影響を及ぼす膠原病に合併した間質性肺炎などの豊富な診療実績があります。この優れた伝統を受け継ぎ、神経内科とリウマチ膠原病内科の全般的な診療にあたることを基本として、難病の治療に粘り強くあたっていきたいと思っております。難病患者とともに歩んでいく医師を育成することが、私の役割と考えます。若い医師の力が臨床と研究で十分発揮できる教室作りを目指し、本学および地域の発展に貢献したいと思っております。

ご指導ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。